

カワガラス (学名: *Cinclus pallasii*)

[スズメ目 カワガラス科]



(左)カワガラスの特徴的な姿勢 (右上)水中を泳ぐ (右下)頑丈な足で逆さに石にとまる

柴倉橋を渡っていると下の方から「ビツ ビツ」という鋭い音が聞こえてきます。下をのぞくと黒い小さな影が水面上を弾丸のように飛んで行きます。水面から突き出た石の上にとまると翼をパッと開閉すると同時に尾を落としながら、ちょこちょこと歩きまわっています。水面を見つめたかと思うと、不意に水の中に潜っていきました。少しして水から出てくると目のあたりが一瞬白くなります。瞬きをしているのです。

この鳥は、カワガラスといいます。カラスという名前がついていますが、ハシブトガラスやハシボソガラスといったいわゆるカラスの仲間ではありません。全長22cmとムクドリより少し大きく、オスもメスも同じく全身こげ茶色で、まぶたが白い色をしています。カワガラスは、北海道から屋久島まで留鳥として見られます。河川の中流や上流に生息しており、トビケラやカゲロウといった水生昆虫を主に食べています。潜水や川底を歩くなど、水中で巧みに水生動物を捕まえ

ます。なわばりを持つことが知られていますが、一方で、離れたいくつかの場所に行動圏を持つ個体もいるそうです。繁殖期は冬で、2月から6月にかけて産卵します。滝の裏の岩の間や堰堤の水抜き穴にコケを材料とした球形の巣を作ります。

只見町では、「カースズメ」や「カードリ」と呼ばれていたそうです。只見川や伊南川、その支流の小川、小さな沢でも見ることができます。水害の影響で一時ずいぶん減ったといわれていますが、今年は少し見るできるようになりました。地鳴きは「ビツ ビツ」という濁った鋭い声ですが、さえずりは「チ チ チュビチュビユユ」といった複雑な歌で鳴きます。10月頃から不鮮明なさえずりを聞くようになります。カワガラスの繁殖はこれからが本番。コケを集めている姿を見つけたら、近くで巣作りしているサインです。

企画展示

「只見の天然資源とその利用」

期間: 10月25日(土)~12月28日(日)

好評につき開催期間を延長します。

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください

12月29日~1月3日は年末年始の休館となりますが、只見町プラセンターは冬期も開館しています。

問い合わせ先: 只見町プラセンター 電話0241-72-8355